

(株)ケーブルテレビ可児

より見やすく、親しみやすく



見たい時にすぐに見られてこそ、データ放送の本来の力が発揮される。岐阜県可児市と可児郡御嵩町をサービスエリアとする(株)ケーブルテレビ可児(岐阜・可児市、多和田博社長)は、使いやすいデータ放送を構築した。

平井正道氏 地域情報部 データ課 課長(右)

田中尚子氏 地域情報部 データ課

画面表示で情報提供

ケーブルテレビ可児(CTK)のデータ放送では、自社入力でCTK情報(番組や営業情報)、防災防犯(一部)、病院、地域の学校給食のメニューなどを提供。また、交通情報や気象情報、料理レシピ、行政情報などのコンテンツは、外部入力&連携によって提供されている。なお、災害情報等はいち早く視聴者へ提供するため、行政からの緊急メール等は、放送画面上に自動表示するようになっている。

CTKのデータ放送は提供情報の充実とともに、ユーザー目線、使いやすいデザインにもこだわっているのが特長だ。データ放送は、dボタンを押してもらって初めて利用されるもの。多種多様な地域情報が掲載され、便利なツールもdボタンを押してもらえなければ意味がない。

そこで、CTKでは、コミチャンを選局すると、画面の左側にデータ放送のコンテンツのアイコンが自動的にオーバーレイ表示されるように工夫した。視聴者は、リモコンの上下ボタンでスクロールし、見たいものを選択するだけで、データ放送画面へ移行し、その情報を取得できる。このような直感的なデザインにすることで、若い人も、忙しい人も、年配の人でも使えるものにした。これならば、自然と利用率は高まるだろう。

使いやすさの追求は、それだけではない。朝

(6時~9時)、お昼(12時~13時)、夕方(17時~19時)の忙しい時間帯には、本線右上に「時刻」「天気予報」「警報・注意報」「鉄道運行情報」をオーバーレイ表示させ、データ放送に入らなくても最低限の情報を一目で得られるようにした。天気予報や鉄道運行情報など、外出時に気になるものがあれば、リモコンの色ボタンで詳細をすぐに見ることを可能にしている。

もう一つの工夫が、データ放送のトップ画面にあるコミチャンの本線映像をセンターに配置している点だ。通常、地上波を始め本線映像を画面右上に配置することが多いが、「本線映像を見ながらも、データ放送のコンテンツも見やすくなるように」(田中氏)の配慮から、センターに本線映像を配置した。これによって、「以前よりも見やすくなった、使いやすくなった」との意見がCTKに寄せられているという。

Twitter連携で情報更新

CTKのエリアは、2年連続で水害に見舞われており、災害に強いコミュニティチャンネルを目指している。データ放送もその一役を担えるようにしていく方針だ。「緊急地震速報を放送画面上に自動表示させ、その後の情報は、データ放送の中で履歴として視聴できるようにしていきたい」と平井課長は語る。

当然、行政情報などの地域情報のさらなる



データ放送トップ画面



スクロールするアイコンで見やすいメニュー

充実も進める。行政が発信するTwitterの情報と連携して、データ放送で提供し、イベント情報や速報的な情報を即座にデータ放送でも提供できるようにしていく。また、webからの情報をデータ放送へ反映させるだけでなく、逆にデータ放送の情報を他のwebメディア等への提供等を計画中であるほか、今後はバナー広告等を掲載し、収益を上げる仕組みも検討していく方針だと言う。

「今回のものが完成形だとは思っていません。今後も利便性と情報量を強化していきますし、双方向性を構築していけたらと思います。ゲームなど、何か身近なものをきっかけに定期的に利用してもらえよう手段を作り上げていきたい」と平井課長は語る。